

長崎大リレー講座・要旨 ⑥

明確な国家ビジョン必要

東日本大震災と福島第1原発事故によって、われわれの社会システムの脆弱(せいじゃく)性が露呈(ろせい)した。明確な国家ビジョンをもって再構築していかなければ長くは持たないことが国民の共通認識となった。

ポスト3/11の日本再生プログラム

凱風館館長

うちだ 内田 樹氏

トを上げるのかと圧力があつた。それを維持しきれなくなったと語っていた。この報道は中京地区経済が崩壊することを意味している。自動車産業の雇用が消えると同時に関連する全ての製造業も消えてしまうことになる。つまりグローバル経済の中では国民経済的な視点を持つていては経営はやっていけない、ということ。これをカミングアウトしたことになる。歴史的な発言とも言える。

国民経済、端的に言う「1億3千万人をどうやって食わせるか」といふことを最優先に考えるべき、という経営者はい

害などが関連づけられてしまう。全てのもがグローバルにつながっているせいで、何の関係もない国で起きたことが自分たちの仕事や報酬に影響を与え

ない。本来の経済活動の目的は完全雇用であり、その上でさまざまな文化活動などで市民的成熟を支援する「経世済民」であるはずだ。よく使われる「閉塞(へいさく)へいそく」感」との言葉。これを定義するならば「個人的な努力とそれに対する報酬の間に相関関係がないこと」。いくら働いてもそれが返ってこない。経済に関わる際、自分の努力とそれに対するリターンの中に、多くの関連事項があり過ぎてつながらなくなっている。これが経済のグローバル化。世界中の全ての政治的、経済的、自然災害などが関連づけられてしまう。

閉塞感ではないか。雇用とは若い人を社会訓練し育てていく非常に重要な過程。グローバル化しなければならぬ所はあるが、雇用環境は世界経済と切り離すべき。これから先の日本は鎖国。これくらいのスケールで考え、今何が起きているのかを理解する必要がある。